



広島工業大学と新しい教育プログラム「HIT.E ▶2024」

広島工業大学
学長 長坂 康史
※2019年4月1日就任

大学を取り巻く環境

現在、日本では少子高齢社会に対する対策として様々な政策が進められています。大学にとっても少子化の影響は大きいものですが、ここ数年、大学等の高等教育機関への進学率が増加傾向であったこともあり、進学者数は減少せず、実際には大きな問題にはなっていませんでした。しかし、18歳人口を見てみると、平成4(1992)年度の205万人をピークに減少し、平成31(2019)年度には約117万人、そして、令和12(2030)年には105万人、令和22(2040)年には88万人まで減少すると予想されています。進学者もこれ以上は高くないと言われる中、数年で進学者数が減少するのは必至です。そのため、本学でも、他の大学にはない特徴をしっかりと示し、広島工業大学で学ぶことの有意性を積極的に発信する必要があります。

大学には教育と研究という大きな2本の柱があります。その割合は大学によって様々ですが、これらのどちらが欠けても、大学としては成り立たなくなるでしょう。また、教育と研究のどちらも、その結果が求められるようになってきました。いかに良い教育や研究を行い社会に貢献するか、その部分が求められていると捉えることができます。そのため、これまで以上に、大学は社会とつながりをしっかりと持ち、連携した人材育成そして研究開発が必要になってくると考えられます。

広島工業大学の教育と研究

本学は、建学の精神「教育は愛なり」と教育方針「常に神と共に歩み社会に

奉仕する」の2つの教育理念の下、学生教育にあたっています。学生一人ひとりの性格や興味を理解し、それぞれの学生に寄り添いながら教育を行っています。さらに、技術偏重になるのではなく、自然に対して畏敬の念を抱きながら社会に奉仕することができる倫理観を持った技術系人材を輩出しようと努力しています。このことを常に忘れず、教育や研究を行うことで広島工業大学をより強い大学にできると確信しています。

ここ数年、初中等教育現場でも取上げられているキーワードに「SDGs(エス・ディー・ジーズ:Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)」があります。このSDGsとは、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標のことで、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけるものです。

大学の研究においても、これらの目標を意識して進めていく必要があります。もちろん、直接的ではない場合もありますが、私たちの暮らしや社会に貢献できる研究を推進していくことが求められていると考え、自ずとこのSDGsにつながるはず。また、本学



には多岐にわたる分野の専門家がいます。相互交流を深め、さまざまな専門分野の融合領域での研究が進められると良いと考えています。そのような学内共同プロジェクトが盛んに行われるような基盤の構築が必要だと考えています。

広島工業大学と社会

本学で学び社会に巣立っていった人材は、これまでに約48,000名います。これらの卒業生はそれぞれの分野で、日々活躍しています。今までは、卒業すると、大学との関係が急に希薄になる傾向がありました。しかし、今後はより社会に貢献できる人材を輩出するために、卒業生の力も借りながら学生の教育に当たる必要があると考えています。これからは、今以上に同窓会との連絡を密に取りながら、本学の教育理念にある「常に神と共に歩み社会に奉仕する」技術者を輩出するために連携できればと考えています。

大学は、人材育成の場そして研究、開発の場としての役割があります。さらに、これらに加えて、それぞれの地域の知の拠点であることも求められています。教育及び研究・開発において地域と密接に連携しつつ情報の発信や共創を行う場としての大学への期待にも応えていかなければならないと感じています。

社会からみると大学の壁は高く、技術的に相談したいことがあってもなかなか相談することは難しいという話を聞きます。工学系大学の本学としては、社会への貢献をどのような形で実現するかについて、真剣に考えなければならない

と考えています。そのような中、平成29(2017)年に立ち上げた地域連携技術研究協力会があります。これらの活動も活性化させながら、社会との連携が益々盛んになるよう進めていく必要があるでしょう。

新しい教育プログラム「HIT.E ▶2024」

大学に対する社会からの要請は日々変化していますが、生涯学び続け、どのような環境においても答えのない課題を解決する能力の育成は大学教育の大きな目標となっています。この目標に対して、本学では、平成28(2016)年に教育プログラム「HIT教育2016」を始動し、堅実な学力と豊かな人間力に満ちた学士力を有する倫理観ある技術者の養成を目指し、学士課程教育の質的転換に取り組んできました。本年度は、そのプログラムの完成年度となり、その成果を評価しつつ、令和2(2020)年から始まる次のステップにつなげていかなければなりません。

特に、社会構造が急速かつ大きく変化中、これまでの専門力と人間力と共に、社会が変化しても陳腐化しない普遍的なスキルやリテラシーの養成も大学に強く求められるようになってきています。これらのことを意識した教育プログラム、すなわち、それぞれの専門教育のみならず、専門教育と教養教育の融合、また、学生主体の自主的活動を積極的に教育プログラムに組み込むことが必要であると感じています。

そこで、現在取り組んでいる「HIT教育2016」に、幅広い教養教育(リベラルアーツ教育)の充実及び社会と繋がる

実践的学びの導入により、共に課題を発見し解決する力と、学び合い成長し続けられる力を持ち、地域社会及び国際社会に貢献できる高いコンピテンシーと倫理観を持った技術者を養成することを目的とした新しい教育プログラム「HIT.E ▶2024」を展開することとしました。



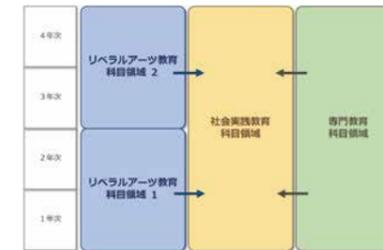
この新しい教育プログラムでは、これまでの「専門力」と「人間力」はもちろんのこと、「共に課題を発見し解決する力」「学び合い成長し続けられる力」「地域及び国際社会で活躍できる力」を養成するにはどうすれば良いかに着目しました。

例えば、リベラルアーツ教育に関しては、これまでの比較的低学年時に卒業に必要な単位を修得してしまう傾向があり、専門教育と教養教育との間に乖離が見られました。そこで「HIT.E ▶2024」では、リベラルアーツ教育科目の履修を4年間必修とし、また、その科目選択を自ら考えるような仕組みも導入しています。

また、社会実践教育科目の導入も「HIT.E ▶2024」の特徴の一つです。社会を意識した実践的な学びを行うこの科目では、1~2年生の年次混成の少人数

グループを作り、そのグループで一つの課題に取り組みます。はじめは与えられた課題を解決するPBL(Problem-based Learning)を中心に進めることで、チームで課題を解決する力、また、学び合う力を養成することを狙っています。また、3~4年生では、専門性とともに、課題を発見する部分も含めたPBL(Project-based Learning)に繋がることを期待しています。

このほか、学科の専門に即した数理科目の導入、リメディアル教育の導入や入学前教育の充実、さらには、地域(ローカル)及び国際社会(グローバル)を意識したグローバル教育の充実など様々な取組みを始めます。



さいごに

広島工業大学は、2つの教育理念に基づいた新しい教育プログラム「HIT.E ▶2024」を始動することで、これからの社会で活躍する、確かな専門力と豊かな人間力を持った倫理観ある技術者の育成を実現します。また、研究及び教育において、社会の声にしっかりと耳を傾け、社会の求める大学としてあり続けられるよう、教職員全員が一致団結して、歩み続けていきたいと思